あいさつ

所長　西浜完治

平成 23 年 4 月 1 日付けで環境保全課より赴任して参りました。衛環研ニュースの紙面を借りてご挨拶を申し上げます。

昭和 55 年、沖縄県公害衛生研究所が現在の南城市大里の地に新築移転してから今年で 31 年を迎えました。人里から少し離れた小高い丘の中腹にたたずむ研究所は、周囲を緑に囲まれた静かな環境を保っており、まさに調査・研究・研修等を行うにふさわしい恵まれた環境にあります。移転当初は吉田所長（第 5 代所長）が精力的に木を植樹したと聞いておりますが、今はそれが大木となって直射日光を柔らかくさえぎるとともに、四季折々の花を咲かせ数多くの小鳥が毎日訪れます。ヒヨドリ、メジロ、スズメ、アオバト、ウグイス等に加え、サシバ、アカショウビン、ホトトギス等渡り鳥も忙しくさえずり回っています。木々の葉の音、小鳥のさえずりが聞こえ、居ながらにして自然観察ができる所長室の窓から四季の移り変わりを感じながら公務に励む毎日です。

話は飛びますが、私が琉球大学在学中の昭和 48 年頃は全国的にも公害論争が盛んで宇井先生の「公害言論」が一世を風びしていました。琉大祭で沖縄の大気中の有害物質調査を行うことになり、当時、那覇市久茂地にあった公害衛生研究所からエアーサンプラーを借りて開南と安里交差点で大気を採取し調査を行いました。同級生や後輩が昼夜交代で機器の管理をし、電気は近くの家から無償で引かせていただきました。窒素・硫黄酸化物、重金属類を分析し琉大祭で分析結果を公開したものです。その時快く機器をお貸し下さった職員の皆様の心意気を感じた古き良き時代であったと思っています。

平成 6 年、沖縄県衛生環境研究所と名を改め、現在では企画管理、衛生科学、環境科学の三班体制にスリム化され、試験検査・研究活動を展開しております。特に、今年 3 月 11 日、東日本大地震（M9）のあと大津波、福島原発事故と未曾有の大震災が起こりました。環境科学班では事故後の放射能測定を毎日続けて行っており、データを公表しています。また、公共用水域や特定事業場排水の監視・測定、基地から派生する航空機騒音等への対応を行っています。衛生科学班では、抗ハブ毒ヒト抗毒素の開発や誘引剤を用いたハブの効率的な捕獲方法の開発、クラゲやイソギンチャク、魚等の毒性の研究、最近他県で発生した O157、O111 による食中毒や、インフルエンザ、麻疹等の感染症に対応するために検査即応体制を組んで感染症予防に対応しています。企画管理班では地域がん登録や、感染症情報センターの運営、医療費や検診データの分析等の業務を行っており、本県の医療や健康増進に役立てる情報を発信しています。また、研修等の実施、所報やホームページによる研究成果の普及啓発に努めています。

現在では職員数 42 人と以前より大分減員されましたが、精密分析機器を使いこなした調査・研究ではより多くの成果を挙げています。職員の努力の成果と思っています。今後は、職員が調査・研究を行いやすい職場環境を整えるべく努力していきたいと思っています。関係各位のご支援・ご協力をよろしくお願いします。